

御礼と報告

県姉妹州・クイーンズランド州洪水被害義援金募金への御協力ありがとうございました

当協会では、県姉妹州・クイーンズランド州で発生した洪水被害に対する義援金を募集したところ、総額540,748円が寄せられました。県民の皆様の温かい御理解と御協力、誠にありがとうございました。

皆様から寄せられました義援金は、県職員からの義援金とともに、上田知事がクイーンズランド州政府駐日事務所を通じて、クイーンズランド州アナ・ブライ首相あてに贈呈しました。



外国人住民が自治会役員に！

“外国人住民参加のまちづくり”について意見交換会を開催しました！

NGOや自治体が協働して多文化共生や国際協力に取り組むために設立された「彩の国さいたま国際交流・協力ネットワーク」。昨年からは、地域の特性を生かし、取組や連携を強めていこうと意見交換会を始めました。

今年は、さらに活動を広げていこうと、埼玉県警察、多文化共生キーパーソン（埼玉県委嘱）などにも参加を呼びかけ、4地域、150名を超える方々にお集まりいただき、「外国人住民参加のまちづくり」について意見交換会を行いました。

各地域で創意と工夫ある取組が行われています。みなさんの地域でも参考にしてみたいはいかがでしょうか。



- 自治会費を納めるように、多言語で説明書をつくり、自治会費の意味がわかったら気持ちよく払ってくれた。「外国人住民は自治会費も払わない。それじゃ回覧板もまわさない。」では、お互いの理解は進まない。
- 外国人住民に地元自治会の役員に就任してもらうことで、子育て、防災など地域の連携がスムーズになっている。
- 外国人住民も参加する多文化審議会をつくりまちづくりを始めている。今年は、情報発信基地として、地元の商店街などに協力を呼びかけた。
- 子どもを中心にする、親、お年寄りにまで活動が広がる。特に幼少期（幼稚園、保育園）だと、勉強などの競争もなくスムーズにコミュニケーションが進んだ。
- 地域にとけ込めるよう、外国人住民にも積極的にPTA活動に参加してもらっている。
- 大学連携（インターシップ制度を活用）して、日本語指導と教科指導、さらにはコミュニケーション活動を行っている。
- 従来の日本語指導では敷居が高く外国人住民が集まらないので、生活に密着した日本語（買い物に行こうなど）や交流を交えることで長続きしている。

※ 今年も、タウンミーティングとして開催する予定です。